

今号ではスペイン語の譲歩文(*oración concesiva*)を扱います。譲歩文とは「まあ、～であるかもしれないけれども、やっぱり～である」と一歩譲りながらもそれに反することを述べる形式です。最も典型的なのは、接続詞 *aunque* を使った文です。

aunque 節の動詞は直説法の場合と接続法の場合があります。使い分けのメカニズムは意外に複雑なのですが、本稿では中級学習者を想定し、なるべく単純化して説明します。

事実的な譲歩：*aunque* + 直説法

仮定的な譲歩：*aunque* + 接続法

Aunque llueve hoy, **salimos** a pasear.

今日雨が降っているけれども散歩に出かける。

Aunque llueva mañana, **saldremos** a pasear.

明日たとえ雨でも散歩に出かけよう。

前者では実際に雨が降っています、後者では明日のことなのであくまで仮定です。ただし、事実の場合でも接続法が使われることもあります。以下の例文を比較してみてください。

Aunque María **es** española, no baila flamenco.

マリアは(実は)スペイン人だけれどもフラメンコを踊らない。

Aunque María **sea** española, no baila flamenco.

マリアはスペイン人だが(何と!)フラメンコを踊らない。

どちらの例文でもマリアがスペイン人であることは事実です。直説法だとマリアがスペイン人であることを話し相手に伝えようとする意図があります。それに対して接続法だと話し相手はマリアがスペイン人であることを知っているか、またはその事実を前提として、後半の文(フラメンコをやらないという事実)をより強調した表現になります。これをテーマの接続法(*subjuntivo temático*)といいます。

aunque に類するものに *aun cuando* ～や *a pesar de que* ～ (= *pesta a que* ～) などがあります。後続の動詞が場合によって直説法か接続法になるところは同じです。

A pesar de que se agrava la crisis económica, su empresa va viento en popa.

経済危機が厳しくなっているにも関わらず彼の会社は順風満帆だ。

☆*"viento en popa"* は「船尾に風→順調に」という熟語です。

一方、*si bien* は必ず直説法を使います。これは *si bien es cierto que* の後半部分が省略されて *si bien* だけ残ったものだとされています。

Si bien Andalucía **es** la imagen típica de España, otras regiones norteñas son también muy atractivas para los turistas.

アンダルシアはスペインの典型的なイメージではあるが、

北部地方もまた観光客にとっても魅力的である。

また、会話でよく使われるものに「*y eso que* + 直説法」(…しかもそれは～というのに)があります。

Miguel suspendió todas las asignaturas, **y eso que había empollado** a tope.

ミゲルは全ての科目を落とした。しかもそれは、精一杯ガリ勉強したというのにだ。

続いて、譲歩の反復表現を見ていきましょう。主なものとして以下2種類紹介します。

1) 「接続法 + 関係詞 + 接続法」(～しようと)

関係詞の前後で接続法の同形を反復するものです。

Pase lo que pase, siempre seremos amigos.

何が起ころうと僕たちはいつも友達でいよう。

Llame cuando llame, su teléfono siempre está comunicando.

いつ電話しようが、彼の電話は話し中だ。

関係詞は *lo que*, *quien*, *cuando*, *donde*, *como*, *cuanto* 等で先行詞を含んだものが普通ですが、先行詞が存在する場合があります。

Se ponga la ropa que se ponga, Luisa siempre está guapísima.

どんな服を着たとしても、ルイサはいつも最高に綺麗だ。

2) 「接続法 + o + 接続法」(～であれ、～であれ)

接続法の同じ形を選択の *o* の前後で繰り返すものです。後半の動詞は否定になることが多いです。

Llueva o no llueva, Juan saca su perro a pasear.

雨が降ろうと降るまいとフアンは犬を散歩に連れ出す。

Haga calor o haga frío, Pedro siempre lleva camiseta de manga corta.

暑かろうが寒かろうが、ペドロはいつも半袖Tシャツを着ている。

続いて、前置詞を使った譲歩構文を2つ学びましょう。1つ目は、「*por + mucho* ～ + *que*」(どんなに～だとしても)で関係代名詞 *que* 以下には接続法が来ることが多いです。

Por mucho dinero que me ofrezcan, no venderé mi casa a nadie.

どんなに多くのお金を提示されようとも誰にも僕の家を売らないぞ。

先ほどは代表例として *mucho* を挙げましたが、*mucho* の代わりに *muy*, *más*, *poco* などが来る構文も同じものです。

Por muy extraño que te parezca, esto es toda la verdad.

どんなに君に奇妙に思えようともこれは全く真実なんだ。

前置詞の構文2つ目は、*con* を使ったもの「*con* ～ *que*」です。こちらは *que* の後は常に直説法の動詞が来ます。

Con el frío que hace hoy, los niños juegan fuera de casa.

今日の寒さにも関わらず子どもたちは外で遊んでいる。

Hace frío → *el frío que hace* と元々 *hace* の目的語であった *frío* を関係代名詞 *que* で受けて、関係節を使った名詞句を作ります。関係代名詞 *que* の先行詞が名詞ではなく形容詞や副詞の場合は、中性の定冠詞 *lo* が使われます。

Con lo inteligente que es, Pablo se deja engañar por los programas maliciosos.

とても賢明なのにも関わらず、パブロはマルウェアに騙されている。

最後に *aunque* を使った諺を紹介して締めくくりにしましょう。

Aunque la mona se **vista** de seda, mona se queda.

猿は絹を着たとしても結局は猿。



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語—文法と演習—』(共著、同人社)などがある。